

3 せせらぎスクール指導者養成講座実践編 郡山会場

せせらぎスクールの指導を行う受講生が、水生生物調査の実施方法等について水生生物調査参加親子に説明する実践的な指導の場を提供し、指導者としての資質向上を図ることを目的にせせらぎスクール指導者養成講座実践編を開催しました。

(1) 日 時：令和元年7月20日(土)

受講生：9時00分～13時40分

水生生物調査参加親子：10時00分～12時20分

(2) 場 所：郡山市河内ふれあいセンター(実習：逢瀬川)

(3) 講 師：福島大学共生システム理工学類 ^{つづみ} ^{ただあき} 塘 忠顕 教授

(4) 人 数：受講生8名/水生生物調査参加親子8名/講師1名/協力3名/事務局6名

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

ア 対象者[受講生]

せせらぎスクール指導者養成講座初級編受講済みの方、または水生生物調査の指導をされている方(過去にされていた方を含む)で、指導者としての知識・技術・ポイントを再確認したい方。

イ 対象者[水生生物調査参加親子]

小学4年生以上の親子(2人1組)

(5) 講座内容：ア～キのとおり。

ア 受講生打合せ・現地(逢瀬川)の確認 9:00～9:45

バックテストの実施方法及び水生生物調査の調査範囲、危険箇所の確認を行うとともに、塘教授に水生生物調査の指導に係る注意点について説明していただきました。



水生生物調査の地点を確認する受講生

イ 開講式 10:00～10:10

受講生及び水生生物調査参加親子が郡山市河内ふれあいセンターに集合し、開講式を行いました。

ウ 現地（逢瀬川）へ移動 10:10～10:20

逢瀬川に移動して水生生物調査における注意事項を説明しました。その後、受講生と水生生物調査参加親子には、お互いに自己紹介をしていただきました。

エ 水生生物調査と水質評価・判定 10:20～12:00

受講生を中心に、水生生物調査参加親子に水生生物調査の方法及び水質評価・判定の説明、指導を行いました。



水生生物調査の様子



水生生物の名前を教える受講生



水質評価の指標となる水生生物について説明する受講生

オ 閉講式 12:10～12:20

逢瀬川から郡山市河内ふれあいセンターに戻って閉講式を行いました。

※水生生物調査参加親子は閉講式後に解散しました。

カ 昼食 12:20～12:50

昼食及び休憩

(講師・受講生・協力・事務局(福島県環境創造センター・福島県生活環境総務課))

キ 意見交換会 12:50～13:40

実際に水生生物調査の指導をしての反省及び意見交換を行いました。

※意見交換会参加者：講師・受講生・協力・事務局



意見交換会の様子

意見交換会の概要

(7) 水生生物調査参加親子に水生生物調査の指導を行っての感想

発言者	内容
(受講生)	◎せせらぎスクールの趣旨について◎ ・水生生物調査に参加する子どもは、魚などの大きな生き物に夢中になる。水生生物調査をどういう目的でやるのかを伝えるのが難しい。事前に目的を伝えるのが良いと思った。
(受講生)	◎指標生物について◎ ・指標以外の水生生物がわからなかった。今後勉強していきたい。
(受講生)	◎安全管理について◎ ・ある程度天候に恵まれ、調査するのにいい時期だった。子どもからちょっと目を離すと一人ですぐにどこかに行ってしまう。けがが心配なのでそこを意識して指導できると良かった。
(受講生)	・万一の事故に備えて子ども達の下流側に立って指導をすると良い。
(事務局)	・子どもが一人で動いて、大人が目が届かない場面があったので、子どもに川にも危険な場所があることを予め説明するのと、周りの大人の監視体制が大切だと思った。

<p>(受講生)</p> <p>(受講生)</p>	<p>◎より興味を持ってもらうために◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2名で親子1組を対応したので目が行き届きやすかった。興味のない子どもにも、どうやって興味を持たせるか苦戦した。 ・ ムシ嫌いの子どものようにどうやって好きになってもらえるかが課題。親御さん（お母さん）にどうやって楽しんでいただけるか。お母さんがコオニヤンマを2匹採取したことを褒めたら、少し喜んでくれた。
<p>(受講生)</p> <p>(受講生)</p> <p>(受講生)</p> <p>(協 力)</p> <p>(協 力)</p> <p>(講 師)</p> <p>(事務局)</p> <p>(事務局)</p> <p>(事務局)</p> <p>(事務局)</p>	<p>◎良かったこと◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に楽しく調査できた。 ・ 誰よりも楽しんで指導することができた。 ・ 名札（振り仮名付き）を付けて実習を行うと、非常に交流がしやすいので良いと思った。 ・ 指導者が楽しむ。するとそれが親子に伝わる。今回の講座でそれがはっきり分かった。また、安全管理の方法が勉強になった。（危険エリアに縄を張り、調査範囲を設定する、危険個所に行かないように誘導する等） ・ 毎回色々なことを教えていただける。水生生物が嫌いな子がいたけれども、おそらく次回は触れるようになると思う。今日は子どもの人数が少なかったが、周りの同級生が楽しんでいると、水生生物に興味をもったり、好きになったりすることがある。 ・ これだけのメンバー（長年水生生物調査をされている協力の方〔遊水会、西郷くらしの会、元小学校教員〕など）で実践編を開催できたことがすごいこと。親子を相手に指導を行えたことが非常に素晴らしい。贅沢な講座を開催できたことに感謝したい。 ・ 受講生自身が非常に水生生物調査を楽しんでいて、今日参加した親子にもそれが伝わっているように感じた。塘先生や協力の方のサポートがあり、水生生物の名前をしっかりと親子に説明していただけたので、有意義な活動になった。 ・ 何度か参加しているが、川に入り始めるとお子さんも親御さんも楽しんでいただけて、特に親が楽しんでいる姿を見ると子どもにも楽しいのが伝わっていくのを感じた。 ・ 受講生の反省の中で、「子どもがムシが嫌いになった…」と言っていたが。その子に「またせせらぎスクールに参加したい？」と聞いてみたら「参加したい」って言ってくれていた。 ・ 個人的に最近の子どもは外での活動を好まないと思っていたが、楽しんで頂いていた。この講座をここ数年開催できなかったのが、今回開催できて良かった。指標外生物について、せせらぎスクール指導者養成講座の中だけでカバーすることは難しいと思う。塘教授や協力の方がサポートしてくださり、親子の方も充実した水生生物調査をすることができたと思う。
<p>(協 力)</p>	<p>◎受講生へのアドバイス◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指標生物は29種類は覚えた方がいいと思う。

(協 力)	・受講生はもっと水生生物の名前を覚えて欲しい。水生生物は小さいが、拡大鏡をもって「ナミウズムシのより目はかわいいでしょ?」とって、子どもに興味を持たせるようにすると良いと思う。
(講 師)	・指標外生物の説明は指導者側が頑張らなければならない。目標を決めて29種類の水生生物を覚えることや、ステップアップ講座で同定の講習を受けることも方法の一つである。指導者自身が楽しむと子どもから目が離れてしまうが、子どもの安全管理に目を向け、バランスよく指導することが今後の課題かもしれない。
(協 力)	◎今後について◎ ・指標生物はまだまだ塘教授に聞かないとわからないが、一つ一つ覚えられるように頑張りたい。9月7日に西郷村で指標生物を覚える教室(ステップアップ講座)を行うので、興味のある方はぜひ参加してほしい。
(講 師)	・今日の経験を親子がどう活かしてくれるかがすごく大事。ただ楽しかっただけではだめ。今日の活動を自分の地域でやってみよう。自分たちの地域の水環境をよくするためには何ができるのかを家族で話し合い、(その取組を)自分達だけじゃなくて周りを巻き込むようなところまで考えた講座にしていきたい。
(事務局)	・別の汚染度の河川における水生生物調査を、別日で実施すると良いのではないかと思った。
(事務局)	・指導者がしっかり水生生物の説明ができようになるとせせらぎスクールの活動がもっと充実していくと思う。
(事務局)	・無事開催できてよかったが、もっと多くの親子の方に参加していただきたい。参加者を増やせるような取組みを実施していきたい。
(受講生)	◎事務局への要望◎ ・水生生物の採集は、ピンセットでなくブラシやスプーンを使用して水生生物をやさしく捕まえるのがいいと思う。また、パックテストの資料に、チューブの上をもって測定する写真と説明を追加して欲しい。
(受講生)	・もっとたくさんの親子に参加していただきたいかった。

(イ) 今回の経験をとおして、今後自分が取組みたいと思うこと

発言者	内容
(受講生)	◎水生生物同定の勉強◎ ・同定の力量が足りないので勉強していきたい。仕事で国交省と協働で河川の水質調査を行っているので、その機会に勉強していきたい。
(受講生)	・講師の先生は、水生生物の種類をぱっと答えられるところがすごい。自分も答えられるようになりたい。
(受講生)	◎所属での実践◎ ・長沼小、長沼東小、長沼中の近くに河川が流れていて、非常にいい環境にある。地域の子もたちが良い活動ができるよう知識を深めていきたい。

(受講生)	・地域の子どもたちに対して、特定廃棄物処分場付近から出ている河川の水質調査を実施し、きれいな水が流れていることを説明できるよう知識を深めていきたい。
(受講生)	・イラストが得意なので、ちょっとでも水生生物がかわいいなと思っていただけに、水生生物調査のPRをしていきたい。子どもや水生生物が苦手な方から興味を持っていただくきっかけづくりをしたい。
(受講生)	・水質調査を行うことについて、業務で何件か依頼が来ていた。今回学んだことを活かしていきたい。
(協力)	・業務で活かすために自主的にもっと勉強していきたい。義務でやるとなかなか人間は入ってこない。自分自身が楽しむ。そういうスタンスで若い技術者に伝えていきたい。
(協力)	・長沼小に長年働きかけをして、せせらぎスクールに参加いただくことができた。学校で上流中流下流での水質調査を実施していく予定。
(協力)	・将来の人生（定年後）で、こういう（せせらぎスクール）楽しい取組があることを広めたい。次の世代を育てていかないとこの活動は続かない。若い人が身近な自然環境に気付き、興味を持つ機会を作っていきたい。
(講師)	・若い人で皆さんに教えられるような人材育成をしていきたい。大学生の中にせせらぎスクールに興味のある生徒はいるが、企業に勤めて業務が忙しくなっていくと離れてしまう学生が多い。継続してせせらぎスクールに参加し続け、スキルを磨いて指導者の立場になれるような人材の育成をしていかなければならないと思っている。 指標になっていない水生生物を覚えるニーズが高そうなので、福島県の主な河川に生息している指標でない水生生物をまとめた資料を作成したいと考えている。写真と共にイラストを交えたわかりやすいものを作りたい。
(受講生)	◎せせらぎスクール参加者との協力◎ ・せっかくできたつながり（せせらぎスクール関係者）を利用していききたい。せせらぎスクールの参加者が増えるためにはどうしたらいいのかを考えること、それに尽きると思う。
(協力)	◎事務局への要望◎ ・小・中学校の要望が年々減っている。身近な環境を学ぶ機会が本当にない。身近な自分たちの周りのことを知ることは非常に大事である。学校で実施できる先生がいなくなってきた。ぜひ事務局には、小・中学校に対して働きかけをしていただきたい。

(ウ) その他環境創造センターにしてほしいこと、要望等

発言者	内容
(受講生)	◎講座の開催◎ ・（水生生物調査・同定）研修をしていただきたい。
(受講生)	・もっと指導者を多くしていかなければならないと思った。

(受講生)	・こういう機会が山形市では耳に入ってこない。地域を広く見て開催してほしい。山形市でも開催してほしい。
(受講生)	◎広報・周知活動◎ ・せせらぎスクールについて、学校等にもっとわかりやすく「こういう取り組みをしているんだ」というように宣伝していただきたい。
(受講生)	・昔、せせらぎスクールを学習するレジュメが一斉に小・中学校に配布された。それがせせらぎスクールを実施したきっかけであった。そういうものがあると良い。また、河川の放射線量が高いと思っている人が非常に多い。河川で遊べる水生生物もいることを記す冊子を作って欲しい。導電率計も貸し出していただけるとありがたい。
(受講生)	・今回のように親子の参加もいいと思うが、より多くの子どもたちに水環境教育を体験してもらうために、学校のークラスに呼び掛けるのはどうか。

(6) 水生生物調査参加親子の感想（アンケート結果から）

ア セせらぎスクール（水生生物による水質調査）を行って、知ったことや学んだことを記入してください。

◎河川の水質について◎ ・日によって川の水の汚れに変化はあるものの、水生生物なら一定期間分を評価できる。外来生物が多くなっていること。 ・川のきれいさにびっくりした。こんなに多くの水生生物がいることを初めて知った。
◎水生生物について◎ ・思ったよりも、水生生物を見つけられた。子どももあまり川で遊ぶ事が少ないので、とても良かった。 ・たくさん昆虫がいて、まだまだ上流の方はきれいな事が分かった。下流の方はどの位の数値（虫の数、パックテストの値）なのかなと思った。 ・水生生物の名前やどんなところに住んでいるのかなと、たくさんのが学べて楽しかった。 ・いろんな生き物が混合している川もある。

イ 今後どのようなことを意識して生活していきたいと思いましたか。

◎生活排水対策◎ ・洗剤などを少なめにして、汚れないように心掛けたい。 ・川の濁り具合によって生息する水生生物の種類も違うので、川を汚さないように生活したいと思った。 ・薬品など流したりしないようにしたい。
◎清掃活動◎ ・ごみ拾いをする。 ・水生生物が住みやすいようにごみなどをひろってきれいな川にしたいです。